

# 経済統計：第1回中間試験

村澤 康友

2017年5月8日

注意：3問とも解答すること。結果より思考過程を重視するので、途中計算等も必ず書くこと（部分点は大きいに与えるが、結果のみの解答は0点とする）。

1. (20点) 以下の用語の定義を式または言葉で書きなさい（各20字程度）。
  - (a) 変動係数
  - (b) 見かけ上の相関
  - (c) 排反事象
  - (d) 歪度
2. (30点) ジョーカーを除くトランプ52枚から1枚抜き出す。残り51枚から無作為に3枚抜き出すと3枚ともダイヤであった。
  - (a) 最初に抜き出した1枚がダイヤであったとき、次に抜き出した3枚がすべてダイヤである確率を求めなさい。
  - (b) 最初に抜き出した1枚がダイヤでなかったとき、次に抜き出した3枚がすべてダイヤである確率を求めなさい。
  - (c) 後で抜き出した3枚がすべてダイヤであったとき、最初に抜き出した1枚がダイヤである確率を求めなさい。
3. (50点) 将棋の振り駒は5枚の駒（「歩兵」）を投げて表（「歩」）と裏（「と」）のどちらの枚数が多いかで先後を決める方法である。振り駒における表の枚数を数える試行を考える。
  - (a) 標本空間を書きなさい。
  - (b) 事象は全部で幾つあるか？  
各駒は相互に独立に等確率で表か裏になると仮定する。表の枚数を  $X$  とする。
  - (c)  $X$  の pdf を式とグラフで書きなさい。
  - (d)  $X$  の cdf を式とグラフで書きなさい。
  - (e)  $X$  の平均と分散を求めなさい。

## 解答例

### 1. 確率・統計の基本用語

- (a) 標準偏差／平均
- (b) 因果関係のない相関
- (c) 事象  $A, B$  が  $A \cap B = \emptyset$  であること
- (d) 3 次の標準化積率

### 2. ベイズの定理

- (a) 最初に抜き出した 1 枚がダイヤである事象を  $A$ 、次に抜き出した 3 枚がすべてダイヤである事象を  $B$  とする．残り 51 枚のうちダイヤは 12 枚だから

$$\begin{aligned} P(B|A) &= \frac{{}_{12}C_3}{{}_{51}C_3} \\ &= \frac{12!/(9!3!)}{51!/(48!3!)} \\ &= \frac{12 \cdot 11 \cdot 10}{51 \cdot 50 \cdot 49} \left( = \frac{4 \cdot 11}{17 \cdot 5 \cdot 49} = \frac{44}{4165} \right) \end{aligned}$$

- (b) 残り 51 枚のうちダイヤは 13 枚だから

$$\begin{aligned} P(B|A^c) &= \frac{{}_{13}C_3}{{}_{51}C_3} \\ &= \frac{13!/(10!3!)}{51!/(48!3!)} \\ &= \frac{13 \cdot 12 \cdot 11}{51 \cdot 50 \cdot 49} \left( = \frac{13 \cdot 2 \cdot 11}{17 \cdot 25 \cdot 49} = \frac{286}{20825} \right) \end{aligned}$$

- (c) 条件つき確率の定義より

$$\begin{aligned} P(A|B) &:= \frac{P(A \cap B)}{P(B)} \\ &= \frac{P(A \cap B)}{P(A \cap B) + P(A^c \cap B)} \\ &= \frac{P(B|A)P(A)}{P(B|A)P(A) + P(B|A^c)P(A^c)} \\ &= \frac{(12 \cdot 11 \cdot 10/51 \cdot 50 \cdot 49)(1/4)}{(12 \cdot 11 \cdot 10/51 \cdot 50 \cdot 49)(1/4) + (13 \cdot 12 \cdot 11/51 \cdot 50 \cdot 49)(3/4)} \\ &= \frac{12 \cdot 11 \cdot 10}{12 \cdot 11 \cdot 10 + 13 \cdot 12 \cdot 11 \cdot 3} \\ &= \frac{10}{10 + 13 \cdot 3} \\ &= \frac{10}{49} \end{aligned}$$

- 条件つき確率の定義で 2 点.
- 最初に抜き出した 3 枚がすべてダイヤであったとき、次に抜き出した 1 枚がダイヤである確率と考えてもよい.

### 3. 離散分布

- (a)  $\Omega := \{0, 1, 2, 3, 4, 5\}$

- $\{\}$  がなければ 5 点.

(b)  $2^6 = 64$

(c)

$$X := \begin{cases} 0 & \text{with pr. } 1/32 \\ 1 & \text{with pr. } 5/32 \\ 2 & \text{with pr. } 10/32 \\ 3 & \text{with pr. } 10/32 \\ 4 & \text{with pr. } 5/32 \\ 5 & \text{with pr. } 1/32 \end{cases}$$

より

$$p_X(x) := \begin{cases} 1/32 & \text{for } x = 0, 5 \\ 5/32 & \text{for } x = 1, 4 \\ 10/32 & \text{for } x = 2, 3 \\ 0 & \text{elsewhere} \end{cases}$$

グラフは省略.

(d)

$$F_X(x) := \begin{cases} 0 & \text{for } x < 0 \\ 1/32 & \text{for } 0 \leq x < 1 \\ 6/32 & \text{for } 1 \leq x < 2 \\ 16/32 & \text{for } 2 \leq x < 3 \\ 26/32 & \text{for } 3 \leq x < 4 \\ 31/32 & \text{for } 4 \leq x < 5 \\ 1 & \text{for } x \geq 5 \end{cases}$$

グラフは省略.

(e)

$$\begin{aligned} E(X) &:= 0 \cdot \frac{1}{32} + 1 \cdot \frac{5}{32} + 2 \cdot \frac{10}{32} + 3 \cdot \frac{10}{32} + 4 \cdot \frac{5}{32} + 5 \cdot \frac{1}{32} \\ &= \frac{5 + 20 + 30 + 20 + 5}{32} \\ &= \frac{80}{32} \\ &= \frac{5}{2} \\ \text{var}(X) &:= \left(0 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{1}{32} + \left(1 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{5}{32} + \left(2 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{10}{32} \\ &\quad + \left(3 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{10}{32} + \left(4 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{5}{32} + \left(5 - \frac{5}{2}\right)^2 \cdot \frac{1}{32} \\ &:= \frac{25}{4} \cdot \frac{1}{32} + \frac{9}{4} \cdot \frac{5}{32} + \frac{1}{4} \cdot \frac{10}{32} + \frac{1}{4} \cdot \frac{10}{32} + \frac{9}{4} \cdot \frac{5}{32} + \frac{25}{4} \cdot \frac{1}{32} \\ &= \frac{25 + 45 + 10 + 10 + 45 + 25}{4 \cdot 32} \\ &= \frac{160}{4 \cdot 32} \\ &= \frac{5}{4} \end{aligned}$$